

J E N E S Y S 2 . 0

中国大学生訪日団第9陣

訪問日程 平成 26 年 3 月 4 日（火）～3 月 11 日（火）

1 プログラム概要

中国日本友好協会が派遣した中国大学生訪日団第9陣計 88 名が、3 月 4 日から 3 月 11 日までの 7 泊 8 日の日程で来日しました。（団長：関立彤（カン・リットウ）中国日本友好協会秘書長）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、日本の大学生と交流したほか、環境施設視察、地方自治体による講義など「クールジャパン」をテーマに様々なプログラムを実施し、日本に対する包括的な理解を深めました。

2 日程 （※①：第1グループ、②：第2グループ、③：第3グループ）

3 月 4 日（火）

成田国際空港より入国、オリエンテーション

3 月 5 日（水）

皇居・二重橋見学、日本のマンガ・アニメ文化に関する講義、有明水再生センター見学、お台場地区見学

3 月 6 日（木）

京都府へ移動、同志社大学訪問・交流

3 月 7 日（金）

清水寺見学、嵐山見学

① 賀県へ移動、滋賀県政に関する講義、園城寺見学

②・③奈良県へ移動、奈良県政になる講義、東大寺見学

3 月 8 日（土）

①彦根城見学、日本文化体験（藍染め体験）、ホームステイ（日野町）

②・③日本文化体験（にぎり墨体験）、唐招提寺見学、薬師寺見学

ホームステイ（明日香村）

3 月 9 日（日）

ホームステイ、商業施設視察

②・③滋賀県へ移動

和風温泉旅館での日本文化体験

3 月 10 日（月）

東京都へ移動、早稲田大学訪問・交流、歓送報告会

3 月 11 日（火）

①国立科学博物館見学、成田国際空港より帰国

3 写真

〈共通〉



3月5日 皇居・二重橋見学（東京都）

3月5日 参观皇居・二重桥（东京都）



3月5日 佐々木隆武蔵野学院大学国際コミュニケーション学部教授による講義（東京都）

3月5日 武蔵野学院大学国際交流学部 佐佐木隆教授の講座（東京都）



3月5日 佐々木隆教授による講義（東京都）

3月5日 佐佐木隆教授の講座（東京都）



3月5日 有明水再生センター見学（東京都）

3月5日 考察有明水再生中心（東京都）



3月5日 お台場地区見学（東京都）

3月5日 参观台场地区（东京都）



3月6日 同志社大学訪問・交流（京都府）

3月6日 同志社大学访问交流（京都府）



3月7日 清水寺見学（京都府）

3月7日 参观清水寺（京都府）



3月7日 嵐山見学（京都府）

3月7日 参观嵐山（京都府）



3月10日 早稲田大学訪問・交流（東京都）

3月10日 早稲田大学访问交流（东京都）



3月10日 歓送報告会 訪日成果報告(東京都)

3月10日 欢送报告会 汇报访日成果(东京都)

〈第1グループ〉



3月7日 滋賀県政に関する講義（滋賀県）

3月7日 滋贺县政府说明会（滋贺县）



3月7日 滋賀県庁訪問（滋賀県）

3月7日 滋贺县政府说明会（滋贺县）

	
3月7日 園城寺見学（滋賀県）	3月8日 琵琶湖見学（滋賀県）
3月7日 参观园城寺（滋贺县）	3月8日 参观琵琶湖（滋贺县）
	
3月8日 彦根城見学（滋賀県）	3月8日 藍染め体験（滋賀県）
3月8日 参观彦根城（滋贺县）	3月8日 体验染布（滋贺县）
	
3月8日 日野町ホームステイ入村式で挨拶する関立彤団長（滋賀県）	3月11日 国立科学博物館見学（東京都）
3月8日 关立彤团长在日野町家庭寄宿的入村式上致辞（滋贺县）	3月11日 参观国立科学博物馆（东京都）

〈第2・第3グループ〉



3月7日 奈良県政に関する講義（奈良県）

3月7日 奈良县政府说明会（奈良県）



3月7日 東大寺見学（奈良県）

3月7日 参观东大寺（奈良县）



3月8日 にぎり墨体験（奈良県）

3月8日 体験捏制墨块（奈良县）



3月8日 奈良県の大学生の案内で唐招提寺見学（奈良県）

3月8日 奈良县大学生担任向导，参观唐招提寺（奈良县）



3月8日 奈良県の大学生の案内で薬師寺見学（奈良県）

3月8日 奈良县大学生担任向导，参观药师寺（奈良县）



3月9日 明日香村ホームステイ入村式（奈良県）

3月9日 明日香村家庭住宿的入村式（奈良县）

4 参加者の感想

○同志社大学と早稲田大学の訪問時、どちらも熱烈な歓迎を受け、日本の大学生と意見交換や諸問題についてディスカッションした。さまざまな問題に対する日本の若者の見方や考え方が理解できたことは、すごく有意義だった。また、学生たちから詳しく紹介してもらったおかげで、日本の学校とその歴史、教育文化等の内容についてもだいたい理解することができた。

今回の訪日で、印象深かったのはホームステイだ。私は日野町のM夫妻のお宅にホームステイした。M夫妻はとても善良で優しく、私たちをとて温かく迎えてくださり、おかげで始めに抱いていた不安は消えてなくなった。一緒に晩御飯の支度をしていたとき、いつのまにか「お父さん」「お母さん」と呼んでいた。一つ屋根の下で同じテーブルを囲んでご飯を食べたら、もう家族だと思う。また日本の「お父さん」と「お母さん」から、父母の温もりを感じた。

特に二日目、ジャガイモを植えていたとき、「お父さん」は自ら私たちに植え方を教えてくださり、私たちもやる気満々でその仕事を終えた。家族と一緒に体を動かして働く感覚に非常に感激し、やる気も百倍だった。「お母さん」はとても穏やかで優しい女性だ。私が今、恋愛について悩んでいると知ると、惜しまずたくさんのアドバイスをくださった。そのアドバイスは私のためになっただけでなく、私を自信でいっぱいにしてくれ、気持ちを伝える勇気もくれた。私たちは、いつか自分の彼女も連れて、また会いに来ると約束した。なんだか不思議な感じがするが、彼らに、自分の本当の子どものように心配し、面倒を見る父母の姿を見た。

別れのとき、日野町の住民の皆さんが私たち訪日団を見送りに来てくださった。中国では昔から「男たるもの、泣くべからず」という言葉があり、自分が泣くななんて思いもしなかった。しかし「お母さん」が一人、両手を強く振りながら私を見送り、最後には駐車場の端まで走って来るのを見たとき、私の眼は潤み、ただただ「お元気で、お母さん」とつぶやいていた。また、この一件で、私はまたこの場所に戻って来ようと決めた。日本の滋賀県日野町には、私の「お父さん」と「お母さん」がいるのだから。

○訪日プログラムがまもなく終わろうとしている。この8日間は疲れもしたが楽しかった。私が見た日本は、道が整っていてきれいで、街中では車が渋滞してもクラクションの音が聞こえず、空気がきれいで、空は東京や京都だけでなく、滋賀でもとても青かった。周りの看板、車、街を歩く人々は皆「可愛（愛すべき・好感が持てる）」という言葉で形容できるように感じた。日本は「可愛」を美德の基準にしている国ではないかと、私は思う。この数日で多くの日本料理を味わい、日本人のあっさりしたものを中心とした食習慣を体感した。また、滋賀県での講義では、中国での環境活動について自信を持つことができた。滋賀県では住民と政府、企業が一緒になって努力し、たったの30年間で琵琶湖に現在の美しい景色を取り戻せたのだから、心を一つにして努力しさえすれば、私たちにも必ずできると信じている。今回、私は日本の一般市民の教育レベルの高さを感じた。ホストファミリーのお父さんもお母さんも、流暢な英語を話すことができた。お父さんは子どもに対して英語だけで話し、お母さんは子どもに対して日本語だけで話し、子どもが小さい頃からバイリンガルの環境を作っている。また他にも、私が思う日本と中国の農村の違いは、中国の農村では両親が基本的に収穫のため子どもの面倒を見ることができないのに対し、日本では逆に多くの時間を子どもと過ごすのに費やし、両親と一緒に子育てをしていることである。

日本のお母さんと交流しているとき、日本の一般市民が実は友好について大きな希望を持っていることがわかった。だから私は信じている！両国の国民の心は一つであり、私たちが共に努力しさえすれば、必ず共にすばらしい明日を迎えられると、そう信じている！

○京都で、早朝にホテルの近くのお寺を散歩していたとき、スーツ姿で急いで歩くサラリーマン、手を引かれて歩くお年寄り、自由に飛び回る鳩やカラス、それに座禅を終え石の道を歩いてくるお坊さんを見た。このお寺は参拝するための場所であるだけでなく、ここで生活する人々の生活の一部でもあり、この街の歴史が積み重なった場所でもある。中国にも多くの旧跡や寺院があるが、往々にして人々の生活とは離れたところにある。日本のように、歴史が人々の生活の中に息づいている街はとても少ない。私は友人知人に、この国の歴史は中国五千年の歴史の長さには及ばないが、生活の中の歴史の積み重ねは、私たちの国をはるかに超えていると伝えたい。

○時間が経つのは早いもので、瞬く間に帰国が近づいている。この8日間で、私は日本を自分の目で見て、自分で体験し、日本の多くのものが非常にいい印象として残った。

まず、最も印象深いことをいくつか話したい。第一に、日本人の一般的教養と環境保護の意識の高さだ。一般的教養については、信号を見て道を渡ることや、勝手にごみを捨てないことなどから見て取れた。環境保護の意識は主にホームステイ中に感じられた。ホームステイ中、ホストファミリーはできるだけ洗剤を使わないようにし、お皿に残った米粒やおかずを集め、バケツに入れてあるものと一緒に発酵させ、野菜の肥料にしていた。家族の一人一人が環境保護や環境愛護の使命を肝に銘じることで、初めて日本の空気がきれいになり、大都市でさえもあんなにさわやかになるのである。この点は私たちも非常に学ぶべきところである。第二に、日本のサービス業は本当に最高である。ホテルでは、部屋はどこも塵一つなく清潔に感じられ、安心してゆっくりと過ごすことができる。また、毎回ホテルを出発するときには、私たちが離れるまでずっと、従業員が外に出て手を振って見送ってくれる。この場面を見るたびに私はとても感動し、とても温かい気持ちになった。第三に、日本の技術である。訪日2日目に有明水再生センターを参観し、感嘆せずにはいられなかった。日本では排水をきれいにし回収・再利用しており、また更に環境を保護している。再生した水では魚の養殖もすることができ、不思議に思った。中国では水の汚染がかなりひどいので、この点について日本に学ぶべきだと思う。

今回、帰国後に身近な友人に伝えたいことは、上記のいくつかの点だけではなく、日本人がとても友好的で、とても優しいということである。日本での経験を話し、彼らの日本人に対する見方を変えたいと思う。また、これを機に、今後日中両国の国民の友好的な交流が増えることを願っている！

最後に、とても楽しい8日間を過ごさせていただき、また自らの目で本当の日本を見せてくれた、すべての日本の友人に感謝を表したい！この8日間は私の人生における美しい思い出である！ありがとう！

○且行且珍惜（時間を惜しんで事を行え）

「恰同学少年、風華正茂。數風流人物、還看今朝（ときもよし、少年よ、人格も才気も正に盛

りだ。風流な人物を数えるくらいなら、今この時代を見よ)」この詩句を書き出しとしたのは、我々青春の息吹に満ち溢れた訪日団を表すとともに、この言葉で、難しい課題を克服し、時間を惜しんで事を行わなければならないという、自分の責任の重大さをわかったからである。

有明水再生センターに注目しよう。資源を合理的に利用し、国の隅々まで展開しているのには、感心せずにいられない。汚水の排出から再生利用、国民の環境保護意識の高さまで、すべてに驚かされた。その技術の高さ、運用原理の深さはもちろん、国民の自覚、自立、向上心に最も感動した。私たちの国は土地が広く資源が豊かではあるが、資源の効率的な利用や再利用とは切り離せない。私はあの広大な土地を深く愛しており、もし私自身が身近なことから始めたら、周りの人々も動かし、周囲の美しい土地を守れるのではないかと思う。

日野町での活動を振り返ると、私が見たのはほんの一部でありすべてを知っているとは言えないことはわかっているが、日本人の生活の細やかさに感嘆し、楽しんだ。友人と、「日本に来て初めて、自分の生活がいかに粗雑であったかがわかった」と話し合った。日本人の家庭は生活の味わいを感じさせないものはひとつとしてなく、置物、飾り、食器などすべて、テンポが速い生活でも、質の高さがうかがわれた。ホストファミリーの2人のお年寄りからは至れり尽くせりのご配慮をいただき、細かいことはくどくど言わなかった。脳裏にはずっと、お年寄りが話していた「若者は理想を持って、しっかり努力しなければ」という言葉が去来している。この言葉を忘れず、しっかり実行しようと思う。

最後に、ホストファミリーのYさんの一番好きな詩でこの感想文を終わりたい。及時当勉励、歲月不待人（すぐに努力をしなさい、時間は人を待たない）。だからこそ、且行且珍惜（時間を惜しんで事を行え）なのだ。

○幸運にも今回の訪日団の一員になれるのだとわかった時から、自分の学んできたすべての知識を使い、日本のみなさんに中国のたくさんのことを伝え、また自分の目で見、日本のみなさんと交流して得たことを自分の身近な人々に伝え、本当の日本の姿を身近な人々に伝えること、それが偉大で重大な任務であるということがわかっていた。

成田空港に到着したとき、日中友好会館の職員たちが手厚く迎えてくれた。私が最も感動したのは、全員が日本語専攻の学生であるのに、彼らは日本語を話し終えた後に丁寧に中国語にも通訳してくれたことである。このような細やかな配慮、行き届いた真心には、本当に心が温まった。ここでは日本のサービス業についても触れないわけにはいかない。常に笑顔で人を迎え、心地よい声で話していた。日本人が道を歩く様子も観察してみたが、彼らはいつも細心の注意を払っており、歩きながらお辞儀をしていた（申し訳なく思う時など）。これはおそらく昔からの習慣なのだろう。

ホームステイのとき、日本の方は非常に優しく、年越しの時だけ作る「お餅」を一緒に作ってくれた。さよならを言う時には多くの仲間が別れを惜しむ涙を流していた。私は、この瞬間の中国の国民と日本の国民の感情は純粋で、真摯で、友情に国境などない、と思った。現代の情報社会では、人々は簡単に自分の本当の考え方を見失ってしまい、人に流されがちだが、実際に行って体験し、交流し、理解することで、初めて知ることができるのである。盲目的に（反日）暴動を起こす若者や、盲目的に日本文化を崇拝する人も多いが、日本語を専攻する学生の一人として、また訪日団の一員として、私たちはもっと自分の見たこと、感じたこと、得たことを身近な人々

に伝え、彼らに本当の日本を理解してもらわなければならない。

○日本語を学び始めてから「中日両国の懸け橋となる」という言葉を良く耳にするが、この言葉は崇高かつ偉大で、聞くと重責が肩にのしかかってくる感じを受ける。しかし、「中日両国の懸け橋」とはつまりどういうことかというのをずっと考えている。実際、私はただの民間人で偉大な人間ではなく、個人の力には限界がある。なんの力もない「個人」が中日二つの「国家」を繋ぎあわせるというのは、不可能なことだと思う。しかし、「人」が「人」と繋がることは可能だと思うので「中日両国の懸け橋」を「中日両国民の懸け橋」として理解することにした。

英語に「No one is an island (どんな人も孤島ではない)」という人間関係を表す言葉があるが、私の考えは逆で、人はみんな孤島に閉じ込められているのだと思う。他の島にいる人を理解しようと思うと懸け橋が要るが、その橋は降ってはこない。島の人の「自分の努力」によってのみ作り出せるのだと思う。懸け橋を築くこと自体は容易だが、懸け橋を築きたいと「望む」かどうかが重要なポイントだ。

上記に述べた内容は、まさに中国人と日本人との問題を表していて、日本人を理解しようとしないう中国人、中国人を理解しようとしないう日本人が、互いの国家を理解するには、ネットやテレビからでなく直接触れ合うべきだと思う。橋を懸けようと「望む」か否かは、あなたの気持ちしだいだ。時間がかかるとは思うが、本当にその橋を渡りたいのなら、私は日本語を学ぶものの使命として協力をしていきたいと思う。

最後に、あなたが懸け橋を築こうとしている過程で、他の孤島の人と出会うことがあれば、それは彼があなたを理解しようとして努力しているのだ。

○この8日間で有明水再生センターの見学が一番印象深かった。水資源は人類にとって非常に重要だが、人類文明の発展によって汚染が著しくなり、日常生活に影響を及ぼしている。この問題への政府の関心もますます高まっているが、日本政府はこれに投資してこの施設を建築した。見学中は、年配の職員が熱心に説明してくれた。他の職員の方たちも白髪のある年配者であったが、中国ではこのような年配の人はリタイアしているのに、職員の方々が熱心に仕事に取り組んでいるのを見て、感慨深かった。日本国民の環境保護に対する責任感と社会人として意欲的に社会活動に参加している姿を見ることができた。

○今回の訪問を通じて、日本人の誠実さ、素朴な人柄に対する理解が深まった。明日香村ホームステイでの、おじいさん、おばあさんの笑顔とおもてなしが一生忘れられない。中日関係が緩和するには、長い時間が必要かもしれないが、中国人と日本人の本質は心の美しい、善良な人々だと思う。なので、これを機に一層、中日友好のために尽力していかなければと考えている。

帰国後は、今回の訪日で得た知識と内容を周囲の人に伝え、中日交流の懸け橋となれるよう努力し、科学と文化の知識を深め、自身のスキルを伸ばすよう努力していきたい。また、自分の行動で、日本で得た収穫を皆に伝えていきたいと考えている。

帰国日が、ちょうど東日本大震災の3周年の日で、この感想文を書いている時も、テレ

び、ラジオなどのメディアでそれに関係する内容を放送している。2008 年に、中国でも大地震が発生したが、当時日本人は中国のために支援をしてくれた。人間性は相通じるものであり、今後、中日関係が着実に健全で調和する方向に向かっていくと信じている。

○今回の訪日文化交流は、とても貴重な体験で、皆が1分1秒も無駄にせず学び、楽しんでいた。私も少なからず衝撃を受け、そこから多くを学んだ。

飛行機を降りて新鮮な空気を吸ったのに始まり、街行く人々がスーツやこざっぱりとした服で慌しく歩いているのを見るにつけ、これは夢の中にいるのでは？本当に別の国に来たのか？と毎日感じていた。日本は地理的環境や地形の特性が中国と似ていたので、中国にいる感覚になったのだと思う。しかし、使う言語、看板、食べ物など中国と異なる夢のような世界には衝撃を受けた。ビルのガラス窓はきれいで、車はクラクションを鳴らさない、人口は多いはずなのに街中ではあまり人を見かない、人が目を背けたくなるトイレのような所にも文明的で配慮がある、ホテルの洗面所のガラスに曇り止め加工がしてあることには驚いた。日本は水資源の豊富な国であるが、節水事業に力を注ぎ、資源を有効利用している。

日々変化と発展している中国だが、どの点をとってもアジア No.1 の日本のようになるには、まだ多くの歳月が必要だと感じた。しかし、我々が視野を広げよく学んで自制すれば、夢ではなくなるのだ。技術のような大きなものに限らず、おもてなしの心、細やかさ、接客態度、資源の節約、物事に取り組む誠実さなど学ぶべきだ。日本は先進国で生活は便利で自由だが、野放図ではなく自制しており、日本人は毎日物事に真面目に取り組んでいる。また日本に来て、今度は本当の日本の生活を体験したい。

○日本文化に興味があったので、来日したら日本の本を買おうと決めていた。本屋に入ると、驚いたことに文庫本が並んでいる棚がいくつもあった。よく見ると有名な本は、単行本と文庫本の2種類あった。縮小サイズの本は携帯に便利で、片手で持って読めるので、駅や新幹線ホームなどどこでも文庫本を販売していて、公共場所で本を読んでいる人をよく見かけた。少しの時間も無駄にせず、読書する学習精神は学ぶべきで、ドラマばかり長時間見ている学生は反省しないといけない。

明日香村のホームステイでは、73 歳のおじいさんが受け入れてくれた。70 代のお年寄りとの交流は、世代間ギャップが大きいと思っていたが、おじいさんは私たちが話す話題についてこれ、英語も交えて会話をした。これには不思議な感覚を覚えた。おじいさんは、私たちとの会話の中で知らないことを学んだと喜んでい様子だった。これこそ「老いても学べ」ということだと思う。歳を重ねるとともに教養を深めるというこの生涯学習の精神を持つ中国の高齢者はあまりいない。

全国民がよく学び、学習意欲を高めていけば、その国は世界大国となれると思う。帰国後はこの向学心を身につけ、多くの書物を読み、1分1秒も無駄にせず新しい知識を学ぶとともに、友人や祖父母にも勧めようと思う。これは個人にも国家にもメリットがあると信じている。

○来日後、特に印象深く感じたことが三つある。一つ目は、日本人は人と接する時、とても温かく親切で礼儀正しく真心があることである。団員の中に訪日期间中に誕生日の人がいて、日本側から誕生日プレゼントが贈られていた。彼女にとって感動的で、みんなにとって羨ましい、忘れられない誕生日になった。

二つ目は、日本の建築物である。日本の国土は大きくはないが土地を有効活用していて、中国の建築物のような高さはないが、設計が素晴らしく、美しいだけでなくとても実用的であった。

三つ目は、日本の都市と農村の差が、想像していたよりも大きくなかったことである。農村は建築物が非常に美しく、環境面もとてもきれいで、人びとの付き合いも調和がとれていて、昔の詩にある桃源郷のようだった。自然が近くにあり、道路整備が合理的で、密集した建築物もなく、青く美しい空が広がっている農村をとっても好きになった。

○今回の訪問で最も印象深かったのは、日本のサービス業である。飲食店であろうと旅行業界であろうとサービスは完璧で、「お客様は神様」を表していた。バスに乗車する時、運転手はやさしく挨拶をし、店で物を買う時、店員は微笑みを絶やさず接客をしてくれた。代金を受け取る時も、商品を手渡す時も、いつも両手を添えていた。一番感動したのは、ホテルを出発する時、毎回ホテルの従業員が見送ってくれたことで、「親切なおもてなしで、我が家に帰った気持ちになる」とは、こういうことなのだと感じた。この点について、中国のサービス業は日本に学ぶ必要があると思う。

それから、日本の交通事情は印象深い。日本にいた数日間、車のクラクション音を聞いたことがなく、交通規則違反を見かけなかった。

帰国後、中日友好の懸け橋となるよう、日本の発達しているところ、日本人が友好的で誠実であったことを、そのままを友人に伝えたい。

○有明水再生センターでは完全に自然の力で浄水をしていて、日本人の環境保護、水資源を大切にする意識を具体的に示していた。特に食器などを洗う時に油を直接流しに流すのではなく、布で油を拭き取ってから洗うということを初めて聞いて、帰国したらこの情報を友人や家族に伝えて、生活の細かい部分から環境、水資源、下水管の保護を心がけていきたいと思う。

同志社大学の自習室は、学生のことを考えた造りになっていた。中国の大学にも同様な、一人で静かに勉強するのではなく、皆で交流しながら意見を出しあえるような自習室があればと思う。そうすれば、学生たちが考える過程を共有することもできる。

日本の街はきれいで、日本人は礼儀正しいが、中国も日本と同様になれると信じている。また、日本人は物事を効率的に行うが、中国人も同様に効果と利益を追求し、努力していけば、生活は更に素晴らしいものになると信じている。

○今回の訪問で、明日香村でのホームステイが最も印象深かった。ホームステイで日本の伝統的な生活や家庭文化を体験できたうえに、日本人の生活水準を理解することができた。重要なのは、日本人の礼儀と温かいおもてなしを知り、日本人の素朴さと親切心が体感で

きたことだ。

主に日本の環境保護意識と先進的な環境理念、開放的な教育方針などを身近な人たちに伝えようと思う。他の人にも日本人の認識を変え、日本人の礼儀、温かさ、友好さを感じてもらえるよう、自分の日本人への印象の変化を伝えていきたい。

○①書籍や中国の先生から学ぶことのできないものを学んだ。例えば、ゼミ。皆で討論した時の活気は、中国の大学とは異なる感じを受けた。

②日本の大学生と交流して、彼らの大学生活を知ることができた。主にサークル、アルバイト、勉強の3つから構成されていた。中国の大学生は、社会勉強のため、もしくは家庭状況によりアルバイトするが、アルバイトは社会に入る前の経験と人脈を築くことができるので、重要なことだと思う。

③同志社大学と早稲田大学の模擬授業に参加して、一流大学の先生の風格を感じた。臨機応変で、聴講学生の興味を引くのがうまく、教室は活気に溢れていた。また、2校ともキャンパスがとてもきれいだった。

○今回の訪日で、印象深く残ったことは沢山あるが、いくつか掻い摘んで簡単に述べる。第一に、数日間での見学、ホームステイ体験の中で、日本人の温かいおもてなしと店員の心のこもったサービスには、とても感動した。レストランで食事を済ませて店を出るときに店員たちは手を振って見送りをしてくれた。ホームステイでは、ホストファミリーがとても親切に接してくれ、家族のような温かさを与えてくれた。各々が礼儀正しく、日本滞在中に多く耳にした言葉は「ありがとう」と「すみません」だった。人に道を譲るときに、譲られた方は会釈をして感謝の意を表したりと、このような人と人との温かい繋がりには感銘を受けた。

第二に、仕事に対し全力で取り組み、情熱を注ぐ、日本人の強い責任感には、深く感動した。レストランでは店員がまず丁寧に私たちの意見を聞いてからサービスをしてくれた。バスの運転手は、初めて乗車の時に自己紹介して私たちを迎えてくれ、下車をするときにも挨拶をして、各々が真面目に自分の仕事をしていた。明日香村でホストファミリーとスーパーへ買い物に行った時に、商品に名前が書いてあったので、聞いてみると生産者の名前なのだそう。生産者が堂々と自分の名前を貼るということは、商品に対し責任を持っている行為であり、これにはとても感動した。もし中国の生産者も同様のことをすれば、中国の食品問題が大きく改善されると思う。

最後に、最も印象深く残ったのは、日本人の自然に対する敬意と保護意識の高さである。日本は都市も農村もとてもきれいで、ゴミが落ちているのを見かけることはなく、空気も新鮮で澄み渡った青い空が広がっていて、大自然の恵みを受けていた。ゴミ処理と回収を行うということは、環境を保護し、人類に幸せをもたらすということだと思う。

○奈良県で日本伝統文化のにぎり墨体験をし、墨の生産工程を理解することができた。伝統あるのにぎり墨の魅力を体感し、職人さんのにぎり墨の技能伝承などについて深く話し合ったりして、得るものが多かった。

